

岩手県の 土地改良



CONTENTS

- 新年のご挨拶
水里ネットいわて会長 高橋三一 ……………2
- 新年に当たって
全国水里ネット会長 野中広務 ……………3
- 平成24年度 農林水産予算の概算が決定 ……………4
- 県営 経営体育成基盤整備事業八重畑地区
県営 ため池等整備事業大留地区が完工……………5
- 県営経営体育成基盤整備事業 徳岡東部地区 完工式……………5
- 花泉土地改良区 発足……………6
- 農業農村整備の推進に関する理事長懇談会を開催 ……6
- 胆沢平野土地改良区が農業農村復興応援祭を開催…………7
- 役員からのごあいさつ ……………8

2012 No.558

■発行所／岩手県土地改良事業団体連合会 盛岡市本宮二丁目10番1号
TEL(盛岡)019(631)3200 FAX(盛岡)019(631)3260

■編集発行人／田山 清 ■印刷所／永代印刷株式会社

<http://www.iwatochi.com>

豊作祈願 (花巻市)





新年のご挨拶

岩手県土地改良事業団体連合会
会長 高橋 三一

新年明けましておめでとうございます。

平素より農業農村整備事業の推進並びに本会の業務運営につきまして、格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

昨年を振り返りますと、3月11日の東日本大震災とこれに起因する津波により、岩手・宮城・福島の沿岸地域が壊滅的な被害を受け、多くの方々の尊い命と財産が失われました。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。又、被災した福島第一原子力発電所からの放射能漏れについては、福島県はもとより近県・近海まで影響が及び、米・野菜などの農畜産物が一部出荷停止に追い込まれる等、農家の方々に大きな被害をもたらしました。

本県におきましては、沿岸地域その他、内陸地域においても県南を中心に甚大な被害が発生し、県内の被害農地や農業用施設は、約17,000箇所、639億円を超える被害額となりました。

さらに、追い打ちをかけるように9月20日から23日にかけては台風15号が岩手県に上陸し、県内各所の農地や農業用施設に大きな爪痕を残しました。

被災された方々に心からお見舞い申し上げますとともに、1日も早い復旧、復興を願っております。

さて、農業・農村は、食料の安定供給はもとより、水や緑、豊かな生態系といった、多面的な機能の発揮を通じて、私たちの日々の暮らしを支えています。しかしながら、農業従事者の減少や高齢化の進行、米価の下落に加え、TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）による農産物の価格競争に対する不安などから活力が失われ、農村社会の維持が困難な状況になりつつあります。

又、本県の基盤整備の状況を見ますと、30a区画以上の水田整備率が、全国平均より10ポイント以上も下回っており、米の生産費は東北で最も高くなっています。また、本県の小麦・大豆の約9割は転作水田での作付で、排水不良等による生育の遅れなどから平均単収は東北平均を大きく下回っており、ほ場整備による水田の大区画化と併せた排水対策が急務となっています。

さらに、昭和30年代以降整備した取水施設や用水路などの基幹的農業水利施設は、本県の厳しい気象条件の中で老朽化が進むとともに、この度の震災でも大きく被災するなど用水の安定供給に不安が高まっています。

このような状況の中、安全・安心な食料を生産する農業と農村を将来にわたって維持していくためには、食料の供給基盤である農地の整備とともに、農地の動脈とも言うべき農業水利施設の長寿命化対策が必要とされています。本会といたしましても、被災地の早期復旧・復興と本県の農業農村整備が着実に推進されるよう、国・県等と連携を一層強化し、会員の皆様方からの御力添えをいただきながら、役職員一丸となって取り組んでいく所存であります。

本年が平穏無事で皆様にとって良き年でありますよう、御健勝と御多幸を心から祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。



新年に当たって

全国水土里ネット

会長 野中 広務

平成24年の年頭に当たり、全国の農業農村整備事業の推進に御尽力いただいております皆様に、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

昨年は、東日本における最大規模の地震や津波、原子力発電所事故、台風12号等による集中豪雨等により、多くの尊い人命が失われるとともに、先人達の努力の結晶である農業・農村が破壊され、これらの地域に大きな爪痕を残しました。

ここに改めてお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された方々に心からのお見舞いを申し上げます。また、一日も早く復旧・復興が進み、再生産の体制を整え、経営の安定に向けて再出発されることを念じておる次第であります。

さて、野田総理は、「環太平洋経済連携協定（TPP）交渉の参加に向けて関係国との協議に入るが、日本の伝統文化、美しい農村は守り抜かねばならない」と表明されました。私も、日本の食と農業、伝統文化、美しい農村を断固として守り抜かねばならないと考えており、総理には、ご自分が表明されたことをしっかりと実行に移して頂くことを強く要求してゆきたいと考えております。

農業・農村は、国の大本であり、日本の豊かな国土や自然環境も、農業・農村が健全であって初めて維持されるものであります。

しかし、現在の農業・農村を見てみると、過疎化、高齢化、担い手不足に加え、土地改良予算の激減による農業水利施設の円滑な更新の滞留や、水田の汎用化対策に遅れが出るなど、大きな課題が山積しております。特に農業水利施設の老朽化は、食料生産の減少や、転作作物への転換の遅れによる食料自給率向上に支障を来すのみならず、更なる農村地域の災害の誘発等の増加をもたらすと危惧させられる大きな問題となっております。今こそ日本の食と農を守るため、これらの課題に対する実効ある対策を、政府に求めてゆくべき時ではないかと思えます。

一方、我々水土里ネット関係者も、苦しい時ではありますが、工夫をこらし、前に向かって活動すべき時ではないでしょうか。我が国の農地や農業水利施設は、先人達の知恵と労苦の結晶として現在まで継承されてきたもので、私たちはこれらを将来に続く子孫に確実に渡していく責務を負っております。

地域の農業や集落が大きく変貌してゆく中で、地域の資源を地域の手でどのように守ってゆくの、水土里ネットや都道府県水土里ネットとしてどのように行動し貢献していくのか等、真剣に考え、主体的に行動を起こし地域農業の発展と地域の活性化のために、「水」「土」「里」を担う中核的な存在としてしっかりと活動してゆく必要があると思えます。そのために、全国的水土里ネットをはじめとする仲間が結束して、地域から声を出し、必要な施策を提案し、積極的に行動していくことが何より重要だと思えます。

新しく輝かしい年の出発に当たり、私も皆様方とともに、全国の仲間とともに活動して参りますことを、身の引き締まる思いとともにここに改めてお誓い申し上げたいと存じます。

本年が全国の皆様にとって良き年でありますように、御健勝と御発展を祈念いたしまして、私の新年の御挨拶と致します。

平成24年度の農林水産予算の概算決定額

1. 総括表

(単位：億円)

区 分	23年度 予算額	24年度概算決定額			(23年度4次補正追加額)	
		通常分 (A)	復旧・復興対策分 (B)	合 計 (C)=(A)+(B)	4次補正 (D)	(C)+(D)
農林水産予算総額 (対前年度比)	22,712 -	21,727 95.7%	1,557 -	23,284 102.5%	1,630 -	24,914 109.7%
1. 公共事業費 (対前年度比)	5,194 -	4,896 94.3%	777 -	5,673 109.2%	0 -	5,673 109.2%
一般公共事業費 (対前年度比)	5,002 -	4,703 94.0%	623 -	5,327 106.5%	0 -	5,327 106.5%
災害復旧等事業費 (対前年度比)	193 -	193 100.0%	154 -	346 179.8%	0 -	346 179.8%
2. 非公共事業費 (対前年度比)	17,517 -	16,831 96.1%	780 -	17,611 100.5%	1,630 -	19,241 109.8%

- (注) 1. 通常分とは、基礎的財政収支対象経費に係る分であり、復旧・復興対策分とは、東日本大震災復興特別会計(仮称)に係る分である。
 2. 金額は関係ベース。
 3. 計数整理の結果、異動を生じることがある。
 4. 計数は、四捨五入のため、端数においては合計とは一致しないものがある。
 5. 復旧・復興対策は、一部を除き復興庁に計上。
 6. 上記のほか、地域自主戦略交付金、沖縄振興一括交付金(仮称)及び地域再生基盤強化交付金を内閣府に、東日本大震災復興交付金を復興庁に計上。
 7. 地域自主戦略交付金及び沖縄振興一括交付金(仮称)(総額314億円)を内閣府に拠出。

2. 公共事業費一覧

(単位：億円)

区 分	23年度予算額	24年度提示額		
		通常分 (A)	復旧・復興対策分 (B)	合 計 (C)=(A)+(B)
農業農村整備 (対前年度比)	2,129	2,129 100.0%	255 -	2,385 112.0%
林野公共 (対前年度比)	1,790	1,748 97.6%	113 -	1,861 103.9%
治 山 (対前年度比)	608	575 94.5%	44 -	618 101.6%
森林整備 (対前年度比)	1,182	1,173 99.3%	69 -	1,242 105.1%
水産基盤整備 (対前年度比)	724	690 95.4%	250 -	940 129.9%
海 岸 (対前年度比)	41	39 96.2%	0 -	39 96.2%
農山漁村地域整備交付金 (対前年度比)	318	96 30.3%	6 -	102 32.1%
一般公共事業費 (対前年度比)	5,002	4,703 94.0%	623 -	5,327 106.5%
災害復旧等 (対前年度比)	193	193 100.0%	154 -	346 179.8%
公共事業費計 (対前年度比)	5,194	4,896 94.3%	777 -	5,673 109.2%

- (注) 1. 通常分とは、基礎的財政収支対象経費に係る分であり、復旧・復興対策分とは、東日本大震災復興特別会計(仮称)に係る分である。
 2. 金額は関係ベース。
 3. 計数整理の結果、異動を生じることがある。
 4. 計数は、四捨五入のため、端数においては合計とは一致しないものがある。
 5. 復旧・復興対策は、一部を除き復興庁に計上。
 6. 上記のほか、地域自主戦略交付金、沖縄振興一括交付金(仮称)及び地域再生基盤強化交付金を内閣府に、東日本大震災復興交付金を復興庁に計上。
 7. 地域自主戦略交付金及び沖縄振興一括交付金(仮称)(総額203億円)を内閣府に拠出。

県営 経営体育成基盤整備事業八重畑地区 県営 ため池等整備事業大留地区が完工

▶ 効率的な営農と、農作業の省力化やブロックローテーションによる品質の確保を期待

水土里ネット石鳥谷東部の受益地内で実施されていた、県営経営体育成基盤整備事業「八重畑地区」、同じく県営ため池等整備事業「大留地区」がこのほど完了し、八重畑地区完工祝賀協賛会（佐々木長孝会長）では、11月22日、花巻市のホテル紅葉館で記念式典と祝賀会を開催した。

県や市、受益者等、関係者約130名が出席した記念式典で、佐々木協賛会長は「区画は小さく、農道も狭小、水路は用排兼用の土水路であった八重畑地区が、大型機械の導入や水管理の労力が大幅に節減されるなど、大きく生まれ変わった。また、老朽化が進んでいた大留地区の

大留堰は、固定堰から可動堰へと全面改修され、安定した水の確保と、維持管理の安全性が担保された。長年の懸案が解消されたことで、両地域の農業経営の安定化と農業振興が図られることを期待する」と式辞を述べた。



【式辞を述べる佐々木会長】

また、菊池勲水土里ネットいわて副会長（会長代理）は「2事業の完工は、大変めでたい。大事なことはこれからどのよう



にこの素晴らしい環境を活用していくかである。個々の農家の努力は必要不可欠であり、一致団結して新たな農業を確立させ、活力ある地域づくりに邁進することを期待する」と祝辞を述べた。

八重畑地区は、平成9年に採択され、1haを標準区画とした373haの大区画化と用水路のパイプライン化、暗渠排水や排水路の装工を行い、着工以来15ヶ年の歳月を経て、完工をむかえた。

同地区の完工により、農業生産性の向上や、加工・販売を行う「6次産業化」などによる、農業経営基盤の強化が期待される。

県営 経営体育成基盤整備事業 徳岡東部地区 完工式

▶ 「徳水東豊」の実現を目指して

水土里ネット胆沢平野管内の徳岡東部地区の事業完了に伴い、徳岡東部地区経営体育成基盤整備事業施行委員会（菅原行雄 委員長）では、11月12日、奥州市の「中の森公民館及びホテルインター」において完工式並びに祝賀会を開催し、県や市などの関係者約50名が参加した。

主催者挨拶で、菅原委員長は「当地区は、区画が小さく水路が土水路のうえ、農道も幅員不足で、作業効率が大変低い状況にあった。本事業により、生産基盤が整備され、今後の営農推

進に弾みがつくものと思う」と挨拶した。



【挨拶を述べる菅原委員長】

また、来賓祝辞として田村均次県南広域振興局長（代理：杉原永康 県南広域振興局農政部長）からは、「TPPに参加表明した以上、日本の農業はこれまでも増して厳しい立場にた



されることになり、今後益々生産基盤の整備と担い手の育成が必要不可欠になってくる。それが地域を守ることにつながるので、県も地域と一体となってがんばっていききたい」と述べた。本事業は、平成13年に県営事業として採択され、64.5haの区画整理を行い、採択から10年余の歳月を経て完工に至った。

本事業の完工により、営農・維持管理等の省力化が図られると共に、担い手農家の育成と経営規模の拡大、農業経営の安定化が期待される。

花泉土地改良区発足

▶ 日形・大堤・金流川東部土地改良区の3土地改良区が合併

花泉土地改良区の設立認可指令書交付式が12月1日に一関地区合同庁舎において行われ、合併協議を始めてから2年3ヶ月を経て新たな土地改良区が発足した。

交付式では、田村均次 県南広域振興局長から熊谷信義 同土地改良区設立委員会委員長（金流川東部土地改良区理事長）に認可指令書が手渡された。

田村局長は、「合併に至るまでには大変なご苦労があったと思うが、これを機に地域農業の

発展、農家の経営向上にご尽力いただきたい」と激励すると、熊谷委員長は「役職員一丸となって、組合員の負託に応えていきたい」と述べた。

3土地改良区は、平成22年11月に同協議会を設立後、平成23年2月に合併予備契約を締結し、今回の合併に至った。

花泉土地改良区は、受益面積730ha、組合員886人となり、事務所を一関市役所花泉支所内に置いて業務を開始する。

今回の合併により、運営基盤



が強化されるとともに、効率的な運営や組合員へのサービス向上、行政とのスムーズな連携等が期待されている。



【認可指令書を交付される熊谷委員長】

農業農村整備の推進に関する理事長懇談会を開催

▶ 本県の今後の農業農村整備の推進や土地改良区が抱える整備・運営課題等について議論

水土里ネットいわて（高橋三一会長）では、11月10日に同会議室において「農業農村整備の推進に関する理事長懇談会」を開催し、県議会農業農村整備推進議員クラブの小田島会長、大宮幹事長や県幹部及び県内土地改良区の理事長ら約50名が出席した。

意見交換に先立ち、須藤勝夫 県農林水産部農村整備担当技監、沼崎光宏技術参事兼農村計画課総括課長、伊藤千一農村建設課総括課長が「岩手県の農業農村整備を巡る情勢と今後の取組方向について」と題し、H24年度の県の農業農村整備予算が前年比80%となる見通しであるため、新規事業を抑えつつ継

続事業の推進を目指すことや、東日本大震災津波被害からの災害復旧事業と一体となって農地整備を進めること等、今後の岩手の農村整備が目指す方向性について説明した。



【説明する須藤技監】

意見交換では、「中山間地域のほ場整備については、地元負担率は低いが総事業費自体が高く、農家負担額も大きいいため、更なる地元負担の軽減が必要で



あること」や、「賦課金滞納者の経営状況を把握するための方法を教えて欲しい」など現下の農業情勢における各地域の整備課題や、土地改良区の運営課題等について意見が出された。出席した理事長らは、「直接、県議会議員、県や県土連と意見交換が出来て大変有意義だった」と感想を述べていた。



【白熱する意見交換】

被災地の復興を願い イベントを実施

▶胆沢平野土地改良区米舞祭を開催



11月13日、水土里ネット胆沢平野（及川正和理事長）では、奥州市水沢区の水沢観光物産センターにおいて、胆沢平野土地改良区農業農村復興応援祭～胆沢平野米舞祭～を開催した。

この催しは、東日本大震災で多くの農地が被災した気仙・気仙川土地改良区を始めとする沿岸地域の復興を支援しようと企画されたもので、約600人の来場者でにぎわった。

オープニングセレモニーで及川理事長は、「沿岸地区の方々と交流を図りつつ、イベントの売上と皆様からの義援金を被災地復興の一助として役立てて頂きたい」と述べた。



【主催者挨拶を述べる
及川理事長】

会場には、津波による被災状況や農業農村整備事業を紹介す

るパネルが展示されるとともに、義援金の募集や、陸前高田市の農水産品、地元農産品の販売なども行われ賑わいを見せた。



【農業用水路等の
多面的機能をPR】

また、希望者を対象に同土地改良区のシンボルである円筒分水工の見学会も行われ、見学者はこの日のために特別に通水された施設を興味深そうに見ていた。

ステージイベントでは、陸前高田市の農水産物のせり市のほか、奥州市の子供たちによる百姓踊りや神楽、被災地大船渡市の寺町一座による大船渡ちんどん屋が披露され会場を盛り上げた。また、陸前高田市に伝わる氷上太鼓が披露されると、その迫力と見事な撥さばきに観客は魅了されていた。

被災地から招かれ挨拶に立った気仙川土地改良区の熊谷研理事長は「被災以降多くの方々に支援をいただいてきて本当に感謝している。我々の復興はまさにこれからであり、皆様からの支援を引き続きお願いしたい」と述べた。



【支援へ感謝の意を
述べる熊谷理事長】

イベントの締めくくりには餅まきも行われ、雨模様にもかかわらず多くの来場者が競って拾うなど、秋のイベントを楽しんでいた。



【特別に通水した円筒分水工】

一日も早い復興を心から願い
謹んで新年のご挨拶を申し上げます

平成24年 元旦



監事	監事	総括監事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	専務理事	副会長	副会長	会長
黒澤金一	對馬喜代夫	浅倉俊平	山下正勝	川村良治	高橋勤一	平賀巖	及川正和	阿部克郎	田山清	菊池勲	田沼齊	高橋三一	
一方井土地改良区理事長	一関東部土地改良区理事長	遠野市土地改良区理事長	馬淵川沿岸土地改良区理事長	山田町土地改良区理事長	山王海土地改良区理事長	豊沢川土地改良区理事長	胆沢平野土地改良区理事長	照井土地改良区理事長	学識経験者	岩手中部土地改良区理事長	越前堰土地改良区理事長	江刺猿ヶ石土地改良区理事長	

他職員一同

次号 (No. 559) は、4月発行予定です